賀川豊彦生誕 100 年記念の碑　小野柄通 1 丁目、生田川公園内

生協活動の父として知られる賀川豊彦の生誕 100 年を記念して、1989（平成元）年 4 月 22 日に建てられたモニュメントである。なお、この碑には賀川直筆の「死線を越えて　我は行く　豊彦」の銘がある。

賀川は 1888（明治 21）年に現在の兵庫区島上町で生まれ、貧しい幼年期を過ごした。1910（明治 43）年の暮れ、彼は葺合の新生田川地区に引っ越し、キリスト教を熱心に信仰し、貧しい人々への献身的な奉仕を続けたのであった。1920（大正 9）年、彼の自伝小説『死線を越えて』が刊行され、ベストセラーとなった。そして、彼の指導で 1921（大正 10）年、神戸購買組合が誕生するが、これが現在では全国一の規模を誇る生協・コープこうべの前身である。また、同じ年、友愛会関西労働同盟会の理事長として、川崎・三菱での労働大争議の指導を行ない、警察に検挙されたこともある。関東大震災後は活動の場を東京に移し、1960（昭和 35）年に 71 歳の生涯を終えている。

なお、こうした賀川の業績をたたえ、彼の慈善事業を継承拡大するため、碑の建つ所から北東の位置、吾妻通 5 丁目に 1963（昭和 38）年、賀川記念館が建てられた。

●「小野柄通（おのえどおり）・小野浜町（おのはまちょう）」の由来

かつて、このあたりは生田神社の近くに広がる野で「生田の小野」として知られていた。近世、生田の小野の海岸付近に新田が開かれ「小野新田」と呼ばれ、その浜を「小野浜」と呼ぶようになった。また、江戸幕末の歌人・賀茂季鷹の詠んだ「分け入りし生田の小野の柄もここに　くちやはてむ布引の滝」歌にちなんで「小野柄」の名が付いたという。

●「御幸通（ごこうどおり）」の由来

生田神社が生田村から生田宮村へと社地を代えたので、生田村から生田宮村へ行く道を御幸通というようになったという。また、生田神社神官の後神（ごこう）氏が住んでいたからともいわれる。

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著